

第3学年〇組 美術科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時 (美術室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 今を生きる私へ (絵や彫刻など)

2 単元の目標

- (1) 描画材料の特性や技法を生かし、主題に適した表現方法を工夫するなど、創造的に表現することができる。
- (2) 自分の姿や心の中を見つめて考えたことを基に主題を生み出し、顔の描写や画面の構図を工夫し、表現の構想を練ることができる。他者の作品から心情や意図を感じ取り、自分の価値感と比較しながら、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 自分の姿や心の中を表現した作品に関心をもち、主体的に創造的な工夫をしたり、技法や材料の特性を生かした表現をしたりしようとする。

3 学習の計画 (7時間完了)

- 第1次 第1時 自画像を鑑賞し、主題を考え、構想を練る。
- 第2次 第2時 (本時) 自分の心情や顔の表情、構図を考えながら下絵を描く。
- 第3次 第3時～第6時 描画材料の特性を生かし、制作を進める。
- 第4次 第7時 完成した作品を鑑賞をする。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 自分の心情から主題を決め、構図を考えたアイデアスケッチを描くことができる。
  - 主題を基に画面構成をし、下絵を描くことができる。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……鉛筆、消しゴム、ワークシート、資料となる写真等
  - 教師……参考作品、アイデアスケッチシート、A4イラストボード、タブレット、付箋
- (3) 関 連
  - 1年 美術 人間っておもしろい (絵や彫刻など・身近な人のその人らしさから主題を生み出し、表現する)
  - 2年 美術 視点の冒険 (絵や彫刻など・視点や構図、描画材料の生かし方などを工夫して表現する)
  - 3年 美術 あの日を忘れない (鑑賞・絵に込められた作者の訴えに関心をもち、見方や感じ方を深める)

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかむ	1 前時の学習を基に構想をまとめる。 (1) ワークシートの記載内容から主題を決める。 ○自分の性格や特性、心情、夢、将来の自分などを基に主題を決める。 (2) 本時の目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         主題を決め、画面構成を考えて下絵を描こう。                     </div>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に記入したウェビングマップを基に、どのような自分の姿や心情を主題にするのかワークシートに記述させる。</li> <li>○参考作品を提示し、表現の工夫に着目させる。</li> <li>○主題設定をするときに自分の思いを反映させることに留意させる。</li> <li>○持参した資料を組み合わせ、主題に迫る工夫をしてもよいことを伝える。</li> </ul>
発想する	2 主題を基にアイデアスケッチをする。 (1) 画面構成を考える。 ○自分の姿を画面のどの位置に配置するか考える。 ○主題に合った背景のイメージや構		<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレットで自分を撮影し、表情や視線に気を付けて、画面構成に生かすようにさせる。</li> <li>○主題と表情との関連を意識させる。</li> </ul>

発 想 す る	成を考える。 (2) ワークシートにアイデアスケッチをし、構図を決める。 ○自分の姿の配置 ・大きさ ・表情、視線 ○背景のイメージ ・部活や趣味などの愛用品 ・将来の姿、願望 (3) 相互鑑賞をする。 ○アイデアスケッチをグループ（4人）で交換する。 ○付箋にそれぞれの観点で記入し、どの部分のことかが分かるようにアイデアスケッチの中に貼る。 ・工夫点…黄緑 ・改善点…ピンク	30	○主題に合った背景を考えさせる。  ○おおよその配置やイメージを決めさせ、短時間でアイデアスケッチをさせる。  <b>評</b> 自分の姿や表情、背景等などと主題との関連を意識し、構図を考えてアイデアスケッチを描いている。（ワークシート）  ○付箋（2色）をグループに配付し、工夫点は黄緑、改善点はピンクに記入させる。  ○改善点は、アドバイスとして捉えさせ、互いの作品批判にならないように留意させる。
	3 アイデアスケッチを基に下絵を描く。 ○イラストボードに下絵を描く。 ・全体の位置から部分へ ・自分の姿、顔の向き、表情など ・背景 ・線や形の流れ、筆勢	45	○自分の心情を作品に表現することを意識させる。 ○アイデアスケッチを参考にして、全体から部分へ向かって描かせる。 <b>評</b> 主題を意識して自分の姿や背景の下絵となる輪郭を描いている。（下絵）
	4 本時の振り返りと次時の学習内容を確認し、後片付けをする。 (1) 本時を振り返り、今後の制作への見通しをもつ。 (2) ペンを使い、線の粗密によって制作を進めていくことを確認する。 (3) 各用具、作品を回収する。	50	○制作過程表に本時の振り返りを記述させる。 ○黒のボールペンや水性ペンを次時に準備させる。 ○タブレットとイラストボードを回収する。

- (5) 本時の評価規準  
○主題に沿った自分の姿や構図のアイデアスケッチを描いている。（ワークシート）  
○アイデアスケッチや持参した資料を基に自分の姿と夢や心の中の世界を画面構成し、描写をしている。（下絵）

## 5 備 考

### (1) 学級の実態

- 本学級の生徒は、どの教科学習においても落ち着いて取り組むことができる。作品に対する思いや願いや感じ取る力は高いが、どのような表現の工夫をすれば自分が意図することが表現できるかが分からず、手が止まってしまう傾向がある。2年時のドライポイント制作では、線で形態や質感を表現することに興味をもち、制作を楽しむ姿が多く見られた。

### (2) 指導の力点

- 自分自身をよく見つめ、「自己とは何か」を自分に問いかけながら、外見だけでなく内面の部分を表現させたい。そのため、主題設定の段階を大切にし、ウェビングマップを取り入れ、自分と向き合わせ自己理解を深めさせることとした。
- 作品を互いに鑑賞し、改善点や工夫点を話し合い、自分の作品を客観的に考える場面を設けた。

## 6 指導と評価